

# 第 106 回実践勉強会 実施レポート

日 時：平成 31 年 4 月 9 日(火) 19 時 45 分

場 所：大田文化の森 5 階 多目的室

## 「認知症治療薬の使い分け」

順天堂大学大学院医学研究科 認知症診断・予防・治療学講座 客員教授

くどうちあき脳神経外科クリニック 認知症早期発見・予防・治療センター長

お茶の水メモリークリニック 医師 田平 武 先生

参加者 92 名

## 質疑応答

中畔先生より

リバスチグミンのパッチは認知機能の改善だけでなく ADL の改善、脳血流の改善、食欲増進などいい作用が多いにも関わらず、アルツハイマー型認知症の治療薬としてあまり使われていない印象があるが、やはり皮膚症状が多いことが原因でしょうか？

田平先生より

特にご開業の先生方はドネペジルを昔から使用されており、やはり「使い慣れ」の部分が大きい。私自身、リバスチグミンはたくさん使用しており、本日の講演の内容を広め、リバスチグミンのいい作用をもっと啓蒙する必要はある。さらに「かぶれにくい製剤」も出る予定であり、より使われるようになるのではないかと考えている。

大森赤十字病院 薬剤部 遠藤先生より

老人斑が増えているような症例はリバスチグミンのいい適応という話があったが、老人斑が増えるとアルツハイマー型認知症としては重度という症例が多く、ガイドライン上リバスチグミンは使えないという認識であるが、いかがでしょうか？

田平先生より

確かにリバスチグミンの適応症は軽度～中等度のアルツハイマー型認知症となっている。ただ、重症度の判定は医師の判断であり、実際にはリバスチグミンの適応と考える患者さんには使用している。

中畔先生より

先生ご自身もサプリメントとして「トウゲシバエキス」を飲まれているとのことですが、将来、認知症に使えるようになる可能性はいかがでしょうか？

田平先生より

現在の「トウゲシバエキス」は原産国が中国であり、農薬の問題等で製剤化することは非常に難しい。ただ「岐阜」で「トウゲシバ」が生えていることがわかり、自治体も協力し、大量生産している所である。現在は「サプリメント」として試験を実施しており、効果が実証されれば「サプリメント」として市販予定である。「薬」とし

て販売するには承認までの大変なハードルがあり、難しいと考えている。